学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア　学則変更（収容定員変更）の内容 2
イ　学則変更（収容定員変更）の必要性 2
ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 3
（ア）教育課程の変更内容 3
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容 4
１　教育方法 4
２　履修指導方法 5
（ウ）教員組織の変更内容 5
（エ）施設・設備の変更内容 6
１　校地・運動場 6
２　施設・設備 7

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア　学則変更（収容定員変更）の内容

令和６年４月より、追手門学院大学の文学部人文学科の収容定員を、以下の通り、変更することとした。

学　部	学　科	収容定員変更前			収容定員変更後		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	人文学科	１８０	５	７３０	２２０	５	８９０

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性

文学部人文学科は、昨今の進学需要や人材需要の動向を踏まえたうえで、特に進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えつつ、学部教育における学生の選択の幅や流動性を高めるとともに、大学教育の多様な発展に向けた特色ある教育研究に取り組むことを目的として、令和４年４月に開設した。

文学部人文学科では、開設後、設置の趣旨や目的等が活かされるよう、設置計画に基づく教育研究の適切な履行に努めていることから、開設初年度及び２年目とも数多くの志願者数と入学者数を確保しており、近年の１８歳人口の減少期においても、入学者選抜の機能を十分に果たすことができるだけの状況を確保している。（資料１：追手門学院大学文学部人文学科 令和４年度及び令和５年度入試結果）

今後、本学が地域社会に対して高等教育機関としての使命と役割を一層果たしていくためには、文学部人文学科への進学希望者に対して、より広く教育を受ける機会を提供することで、高い進学需要に積極的に応えるとともに、多くの有為な人材を輩出することで、地域社会への人的貢献を果たす必要があると考えている。

このことから、文学部人文学科における開設以降２年間の志願者数の状況を踏まえたうえで、受験生からの進学需要の高い学部教育における養成規模の拡充を図ることによる地域社会へのさらなる貢献を目指すこととし、入学者選抜の機能が低下しない範囲内で、文学部人文学科の収容定員変更を行うこととした。

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

文学部人文学科では、「日本文学・日本語・日本史・日本文化に関する学びを通して、高い理解力と思考力を身に付け、専門的知識を活用して思考・行動ができるとともに、創造的に問題解決を図り、新しい文化や時代を創出することができる人材を養成する」こととしており、習得する知識・能力は、「日本の歴史や文化及び日本語に対する広く深い知識や理解と見識に基づく豊かな表現力を習得する。また、文学作品や文献をもとに事実を科学的に考察するための技能を身に付け、物事を深く見通し、本質をとらえる能力を習得する」こととしている。

文学部人文学科では、この養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「共通教育科目」と「学科科目」の科目群から編成しており、「共通教育科目」では「社会で活きる基礎力」を学び、「自己の可能性を生涯にわたり伸ばし続ける教養の基盤づくり」を目的として、「初年次科目」、「外国言語科目」、「体育科目」から編成される「ファウンデーション科目群」と「リベラルアーツ・サイエンス科目群」、「主体的学び科目群」による編成としている。

「共通教育科目」における科目群ごとの授業科目数と単位数は、「ファウンデーション科目群」の「初年次科目」４科目６単位、「外国言語科目」２４科目２６単位、「体育科目」４科目４単位、「リベラルアーツ・サイエンス科目群」の「リベラルアーツ・サイエンス系科目」３科目６単位、「人文学系科目」１４科目４４単位、「社会科学系科目」１３科目２６単位、「自然科学系科目」３科目６単位、「主体的学び科目群」の「キャリア形成系科目」１１科目２１単位、「キャリア展開系科目」３６科目７４単位としており、「共通教育科目」全体として１１２科目２１３単位を配置している。

一方、「学科科目」においては、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程を編成することとしており、専門教育を体系的に展開することから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」の科目群に加えて、専門性を補完する「関連科目」、総合的な課題学習の「専門演習科目」、「専門研究科目」の科目群により編成している。

「学科科目」の授業科目数と単位数は、「専門基礎科目」１９科目３８単位、「専門基幹科目」２３科目４６単位、「専門展開科目」５１科目１０４単位、「関連科目」４５科目９８単位、「専門演習科目」６科目１２単位、「専門研究科目」１科目６単位としており、「学科科目」全体として、必修科目１０科目２４単位、選択科目１３５科目２８０単位の合計１４５科目３０４単位を配置し、４年間の授業全体を通して、専門的な知識や能力を体系的に身につけるための教育課程の編成としている。（資料２：教育課程等の概要）

また、文学部人文学科では、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修のもとに、円滑に単位を取得することが可能となるよう、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化し

て共有できる履修体系図及び養成する具体的な人材像に対応した履修モデルとして「文学中心」、「歴史中心」、「文化中心」の３つのモデルを設定しており、学生の興味と関心や卒業後の進路に応じた適切な授業科目の履修が可能となるよう配慮している。（資料３：履修モデル）

このように文学部人文学科では、養成する人材の目的を達成するために、体系性かつ順次性のある教育課程の編成としており、収容定員を変更した場合でも教育上の支障はないものと考えていることから、収容定員の変更に伴う教育課程の変更は行わないこととしている。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

１　教育方法

文学部人文学科の授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採ることとし、知識や技能を実践に応用する能力の修得を目的とする教育内容は、演習形式及び実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

授業内容に応じた学生数の設定については、授業内容や授業方法、施設や設備の状況、実験・実習や演習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数としており、講義科目は最大で２００人、演習科目は最大で２０人、実験・実習科目は最大で２０人としている。

配当年次は、基礎から応用へと体系的な学習が可能となるよう配慮しており、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の４年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

授業方法は、学生の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることによる能動的学修を導入するとともに、学生の自由な発想力と創造性や感性を養い、実践的な調査力や分析力及び問題発見・解決能力を高めることから、身近な問題や事例を素材とするグループ協同作業で学ぶ問題解決型の学習方式を導入している。

また、卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法や計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準の適用及び厳格な成績評価の方法としてＧＰＡ制度を導入している。

加えて、単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高

めることから、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、各学期に履修科目として登録することができる標準的な単位数の上限を２２単位と定めている。

このように文学部人文学科では、教育の質保証の観点を踏まえたうえで、教育方法の整備と充実に努めており、収容定員を変更した場合でも教育上の支障はないものと考えていることから、収容定員変更に伴う教育方法の変更は行わないこととしている。

２　履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、個別のきめ細やかな履修指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生への履修指導体制を整備している。

また、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であるとの認識のもとに、各専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しているとともに、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるよう養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示している。（資料３：履修モデル）

このように、本学では、質保証システムの整備と確立にむけて、個別の学生に対する履修指導体制を整えており、収容定員を変更した場合でも教育上の支障はないものと考えていることから、収容定員変更に伴う履修指導方法の変更は行わないこととしている。

（ウ）教員組織の変更内容

文学部人文学科の教員組織については、教育課程の編成方針を踏まえたうえで、主要分野の授業科目数や単位数に応じて、各教育内容における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する専任教員を配置しており、年齢構成においても教員組織編成の将来構想を見据え、特定の年齢層に偏ることのないよう配慮した組織としている。

令和４年４月に開設した文学部人文学科の完成年度における専任教員数は、大学設置基準に定める基準教員数１１人に対して１８人の教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する専任教員を配置する計画としており、職位別の配置計画は、教授１０人、准教授５人、講師３人である。年齢構成は７０歳台２人、６０歳台６人、５０歳台６人、４０歳台３人、３０歳台１人から構成することとしており、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障のないよう配慮した教員組織としている。（資料４：令和４年４月開設追手門学院大学文学部人文学科における専任教員の年齢構成・学位保有状況（完成年度））

文学部人文学科では、今般の収容定員変更により、大学設置基準上必要となる専任教員数は、現在の１１人から１３人と増えることとなるが、完成年度における専任教員の配置計画は１８人としていることから、収容定員変更後の設置基準で求められる専任教員数は確保されている。

なお、今般、収容定員が増加することに伴い、当初計画と同等以上の教育の質を保証するために、現在、本学の共通教育機構に所属し、文学部人文学科の兼担教員として専門基幹科目を担当している教員１人を文学部人文学科の専任教員とすることで教員組織の充実を図ることとしている。また、共通教育機構では、当該教員の文学部人文学科への異動に伴い、令和５年４月より専任教員２人を新規に採用する予定としていることから、他学部等の教育環境に影響はないと考えている。

上記に伴い、文学部人文学科の令和９年度における専任教員１人当たりの学生数は、収容定員変更前の４８．７人から収容定員変更後は４９．４人となるが、大学基準協会が「大学評価達成度並びに水準に関する評定事項」で示している「教養教育担当教員を含め、各学部における専任教員１人あたりの学生数が、人文・社会系では６０人以内とする」という水準を下回ることのないよう留意した計画としている。（資料５：基準教員数及びＳ/Ｔ比対比表）

文学部人文学科の完成年度以後の教員組織に関する中期的な人事計画としては、完成年度に定年年齢を超えている者５名について、令和８年４月までに当該専門分野を専攻している者を対象として広く候補者を募り、本学の教員選考規程等で定める審査基準に基づいて、厳格なる審査を経て採用することとしている。

（エ）施設・設備の変更内容

１　校地・運動場

文学部人文学科を設置する追手門学院大学茨木総持寺キャンパスは、大都市である大阪市と京都市の間にあり、市内をＪＲ・阪急・大阪モノレールが通る、大阪市のベッドタウンとしての性格を有した交通の利便性が高い茨木市に位置し、現在、総校地面積約１７０,４８７㎡（茨木安威キャンパス１２１,９０２㎡、茨木総持寺キャンパス４８,５８５㎡）を有しており、学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地についても確保され、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、茨木総持寺キャンパスから２キロメートルほど離れた茨木安威キャンパスの敷地内に約２８,７９２㎡（うち共用面積１４,９５５㎡）の面積を確保しており、学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地についても確保され、校地等面積については、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動用の設備としては、照明設備を完備し夜間の活動も可能な全面人工芝の第１グラウンドと第２グランドを保有し、サッカー・ラグビー・アメリカンフットボール・ラクロス硬式野球及び陸上競技等多目的に活用できるよう整備している。さらにテニスコート３

面、アーチェリー場、３つの体育室を備えた体育館、様々なトレーニング機器のほか、更衣室、シャワー室を完備しているトレーニングセンターも整備されているとともに、学生部室及び管理施設も備えており、授業及び課外活動に利用している。

なお、運動場は茨木安威キャンパスのみ備えているが、茨木安威キャンパスと茨木総持寺キャンパスの移動に関しては、シャトルバスを３０分に１本程度運行しており、移動に要する時間は片道約８分程度であること、また学生用の貸し出し自転車を備えていることから、教育活動及び研究活動への影響が無いようにしている。

２　施設・設備

本学では、現在、２１棟の校舎等（茨木総持寺キャンパス２棟、茨木安威キャンパス１９棟、）を有しており、その面積は６９,３３５㎡（茨木総持寺キャンパス２０，８４８㎡、茨木安威キャンパス４８，４８７㎡、）で、文学部人文学科の学生が学ぶ茨木総持寺キャンパスの主な施設内容としては、演習も可能な稼働机と椅子が整備されている講義室６１室、情報処理施設、語学学習室を設けており、その他、教員控室、図書館、会議室、事務室、保健室、学生食堂などを備えているとともに、教具、校具、備品等を１１,３１７点有している。

一方、茨木安威キャンパスの主な施設内容としては、講義室５７室、演習室１８室、実験実習室２７室、情報処理施設６室、その他に教員控室、図書館、会議室、事務室、保健室、学生食堂、学生厚生施設などを備えているとともに、教具、校具、備品等を８，０５５点有している。

また、本学の図書館では、これまで図書等の資料について、計画的かつ継続的な整備に努めてきており、令和５年１月末現在、図書約５４５，５００冊（うち外国書約１６１，０００冊）を所蔵するとともに、学術雑誌約４，４３０種（うち外国書約１，６３０種）のほか、電子ジャーナル約２４，１７４種、ビデオやＤＶＤなどの視聴覚資料約１４，２５０点の整備がなされていることから、これらを有効的に利用することにより、教育に支障を生じることはないものと考えている。

図書館の機能としては、今般の収容定員変更後の収容定員の約７％にあたる６４７席の閲覧座席数に加えて、視聴覚ブース１２席、レファレンスコーナー、開架式書庫及び可動式書庫等を整備しているとともに、図書館情報システムの導入により、データベース化された書誌・蔵書情報をパソコンにより検索することが可能となるよう整備されているなど、教育研究を促進するための機能を整えている。

視聴覚ブースでは、各ブースにビデオやＤＶＤなどが視聴できる機器を備えているとともに、情報探索用パソコンは学内ＬＡＮに接続され、インターネットの利用も可能となっており、他の大学図書館等との協力については、研修会等での情報交換や文献複写、相互貸借等のサービスにおいて連携を図っている。

さらに本学では、学生が一台ずつ自身のパソコンを保有し、常時学内ＬＡＮにアクセス可能な体制の構築を進めており、学生への貸与用パソコンを１５０台配備するなど、常に教育研究環境の整備に積極的に取り組み、特に施設・設備については充実した環境を整えていることから、収容定員を変更した場合においても、教育上の支障はないものと考えている。